

5月の定例研究会は研究発表がありました。会場は久しぶりに横浜美術館です。

三溪園「蓮華院」と 不空羂索観音「蓮華」との謎を追って

発表者：廣島亨

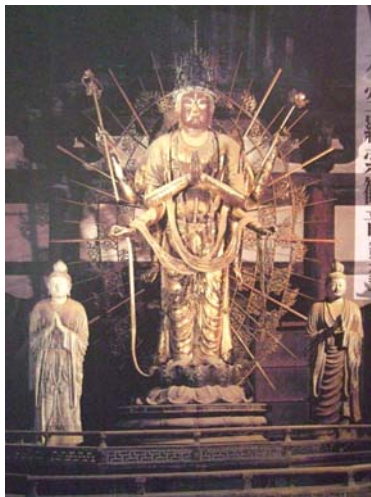
三溪園の「蓮華院」は、東大寺三月堂「不空羂索観音」の蓮華を飾っていたことにその名の由来があります。ところが現在、東大寺の「不空羂索観音」は蓮華を持って立っています。

“東大寺の蓮華は、「蓮華院」に飾っていたものと同一か？” “三溪はいつ入手し、いつ戻したか？” “そのとき三溪の心情は？” 三溪をより深く知りたいとの思いで、今回この謎を追ってみました。

三溪は大正6年に茶室「蓮華院」を建てました。この年は、三溪自らの陣頭指揮により「臨春閣」の移築工事が完成した年であり、長男善一郎がそこを会場に結婚式を挙げた年でもありました。善一郎が名実ともに後継者となる環境が整った年に、「蓮華院」は建てられました。同年12月、初の茶事が「蓮華院」で催されました。東大寺「不空羂索観音」を天平随一と評する善一郎は他の仏像には目もくれなかったと、同行者和田哲郎は『古寺巡礼』に記しています。このような事実を重ねてみると、善一郎を祝福する三溪の幸福感や充実感が伝わってくるようです。

ところが、善一郎は昭和12年8月急逝してしまいます。三溪は同年、追悼の茶事を「蓮華院」で3回催しますが、以降茶事は一切行われませんでした。

以上のような事実関係を確認しつつ今回謎解きを試みましたが、最終ゴールには到りませんでした。



東大寺不空羂索観音像



5月定例研究会

三溪園の古建築は移築されたものが多い中、「蓮華院」は三溪自身が建てた茶室です。周囲には由緒ある石塔・蹲踞（つくばい）・礎石・石棺を（現在の春草蘆の位置に）配置し、一帯に古寺の世界を創造しました。それだけ特別な意味合いが感じられます。“三溪の心と仏教の関わりは？” “三溪が描く三溪園の世界とは？” “善一郎への思いは？” 当会顧問の内海先生から、「蓮華院」はもっともっと重要視されてしかるべき、とのコメントを頂きました。蓮華院を知ることは三溪を知ることに通じる…、改めて再確認した次第です。

（以上）